

② 地区の主な名所・施設

○ 琴の大イチョウ

琴地区の中心部に植生し、推定樹齢1200年とも1500年ともいわれ対馬の地搦歌(じつきうた)には、「琴のイチョウの木対馬の親木(おやき)、胴の回りが三十と五尋」と歌われてきた。

その幹回りは12.5mで、樹高は約23mに達する雄株である。昭和36年11月24日県指定天然記念物に指定され、【日本最古のイチョウ】との研究報告もある。落雷や火事の延焼等により幹は空洞となっているが、今も青々とした葉を茂らせ、その生命力は地区のパワーの源となっている。

旧琴小中学校時代には校章にも使われており、琴地区のシンボルであり、地区住民の世間話の場、憩いの場として親しまれ続けている。

(写真は、表紙に掲載。秋には葉が黄金色となり、その様もまた素晴らしい。)

○ 茂木浜

天然の砂浜で、遠浅であるこの砂浜は、見事なロケーションの海水浴場であり、休憩棟やシャワー室・トイレ等の施設もある。

琴・茂木の子供たちの海水浴場としては勿論の事、砂浜も広く遠浅のため、小さな子供を連れた家族には、最適な海水浴場と言える。

以前は、ウミガメも産卵に訪れていたが、近年はその姿は見られなくなってしまった。

琴・茂木地区の住民には、子供のころから慣れ親しんだ、愛着ある海水浴場である。

(写真は、表紙に掲載)

○ 琴崎神社(胡録神社)

琴地区郷ノ浦から、山道を歩いて20分程の海岸線に鳥居を構え、階段で山へ上がったところに神社がある。

海から船で見る景色は、荘厳で神秘的であり、旧暦の3月3日に祭典が執り行われ、誕生後、初めて祭典を迎える子は、親や祖父母に抱かれて、お参りする慣わしが今も続いている。

年1回の祭典の準備は、地区世帯を2つに分けて、各世帯1人以上の参加と、地区消防団も加わって、神社や参道の清掃、草刈り、しめ縄づくりと設置、旗立を交互に行っている。

祭典後に、家・船・身・交通安全のお守りが販売され、地区民の1年間の健康と安全を守ってくれている。

